

周防畠遺跡群
道常遺跡V

長野県佐久市長土呂道常遺跡V発掘調査報告書

2021. 3

佐久市教育委員会

例 言

- 本書は、K's オフィスが行う宅地造成工事に伴う周防畠遺跡群道常遺跡Vの発掘調査報告書である。
- 調査原因者 K's オフィス 代表 黒澤 周一
- 調査主体者 佐久市教育委員会
- 遺跡名及び調査面積 周防畠遺跡群 道常遺跡V (NSDJV)
245m²
- 所在地 佐久市長土呂字道常1254
- 調査期間 令和2年4月28日～5月14日（現場発掘作業）
令和2年5月15日～令和3年3月（報告書作成作業）
- 調査担当者 富沢一明
- 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 遺構の略記号は、住居址（H）・竪穴建物址（Ta）
土坑（D）・周溝墓（OT）・溝（M）である。
- 挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。
- 遺構の標高は遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」とした。
- 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
- 挿図中のスクリントーンは以下のことを示す。



発掘調査状況

目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

- 経過と立地
- 調査体制
- 調査日誌
- 遺構・遺物の概要
- 標準土層
- 調査の方法

第Ⅱ章 遺構と遺物

- 竪穴住居址
- 竪穴建物址
- 土坑
- 溝状遺構
- 周溝墓
- ピット

第Ⅲ章 調査のまとめ



第1図 道常遺跡V位置図

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 経過と立地

道常遺跡Vは、佐久市長土呂に所在し、周防畠遺跡群の南西よりに位置する。遺跡は、濁川を望む台地上に立地し、台地周辺の海拔は708m前後を測る。

本遺跡の周辺は、中部横断自動車道路をはじめとし区画整理事業や新小学校建設などの各種開発により発掘調査が行われている。特に、中部横断自動車道路の調査では弥生時代後期では国内でも最大級規模となる $18 \times 9.5m$ の竪穴住居が発見され話題となった。また、同遺跡からは布目瓦や平安時代と考えられる銅印「〇子私印」も出土している。

今回、遺跡群内においてK'sオフィスにより宅地造成工事が計画され、市教育委員会に文化財保護法93条の届出があった。市教育委員会では試掘・確認調査を行った結果から遺跡の保護措置がとれない道路部分を中心、記録保存目的の発掘調査を行うことになった。

2 調查体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長 榊澤晴樹			
事務局	社会教育部長	三浦一浩			
	文化振興課長	東城洋			
	企画幹	岡部政也			
	文化財調査係長	山本秀典			
	文化財調査係 調査員	小林真寿 浅沼勝男 橋詰勝子 松本仁宣	羽毛田卓也 小林妙子 橋詰信子 高野園美	富沢一明 依田好行 清水律子 箕輪由紀	上原学 中澤登 大矢志慕 堺益子
					久保浩一郎

3. 調查日誌

- | | |
|-------------|---|
| 令和元年12月13日 | K'sオフィスより土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出。 |
| 3月20日 | 長野県教育委員会へ市教育委員会より元佐教文振第1501-2号土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知について(副申) |
| 3月25日 | 長野県教育委員会より元教文第7-1639号にて周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知) |
| 令和2年3月18日 | K'sオフィスにより埋蔵文化財調査費概算見積依頼が提出。 |
| 4月2日 | K'sオフィスと市教育委員会により埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結 |
| 4月28日～5月14日 | 記録保存目的による開発対象地の発掘調査を行い、引き続き報告書作成業務を行う。 |



第2図 周辺遺跡位置図

令和3年3月

調査報告書を刊行する。

記録類・出土品を整理保管
しすべての業務を終了する。

4. 遺構・遺物の概要

遺構 壓穴住居址2軒(平安) 土坑13基
竪穴建物址3基(中世)
溝状遺構 3本 周溝墓 2基
遺物 土師器・須恵器(壺・甕) 古銭

5. 標準土層

今回の調査地点は南西方向に僅かに傾斜する台地上で、基本層序は2層に分かれる。II層上面が遺構確認面である。確認面深さは地表より30~50cmほどであった。

第I層 10YR4/1 褐灰色土 耕作土

第II層 10YR5/6 黄褐色土 浅間P1層

6. 調査の方法

遺構調査・遺構測量

住居址は均等に4分割し、対面する2区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。

遺物は分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続するNoを付け3次元の記録を行い取り上げた。土坑は長軸方向に沿って2分割し、半裁により土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は遺構Noで一括した。溝址は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。遺構外の遺物はグリット毎に取り上げた。平面図・断面図ともに調査区内に設定した基準杭を利用した遺り方測量により調査担当及び調査員が実施し、縮尺は1/20を基本とした。

遺構・遺物の整理等

遺物洗浄は竹ブラシを用い手でおこない、室内で乾燥させた。注記は白色のポスターカラーによりを行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。遺物接合はセメダインCを使用し、遺物復元の際の充當材はエボキシ系樹脂を用いた。遺物実測は手取りで行った。遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。



遺構図面は1/20で測量実測した図を1/40で修正し、遺物は1/1で実測し、それぞれ仮図版を作成した。

写真・報告書

現場での写真是、デジタル一眼レフカメラによるRAW画質モードと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。

遺物写真是デジタル一眼レフカメラで撮影し、EPSデータ形式で報告書に使用した。報告書挿図はアドビ社製の「イラストレーター」で作成し、表についてはマイクロソフト社の「エクセル」で作成した。写真・拓本はアドビ社製「フォトショップ」により補正加工を行った。これらを最終的に「インデザイン」により頁単位で編集し、印刷原稿とした。

第II章 遺構と遺物

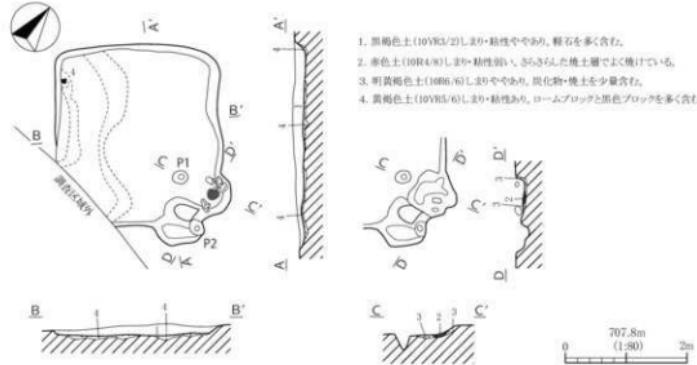
1. 穴住居址

(1) H1号住居址

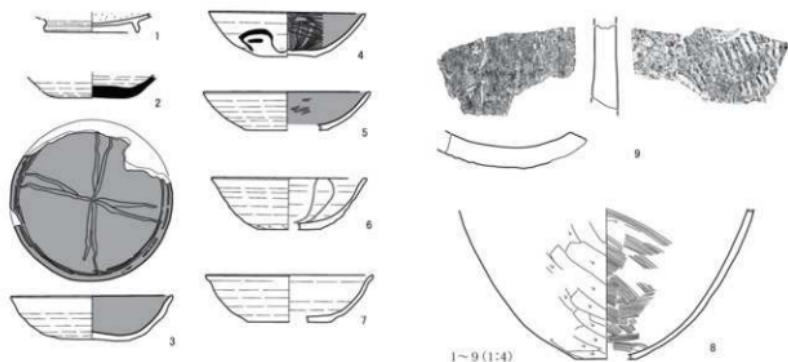
本址は調査区中央で検出された。住居南コーナー部分が一部調査区外となる。形態は方形で、長軸方位はN-42°-Wを測る。規模は南北長2.84m、東西長2.56mを測る。床面積は検出部で6.44m²である。壁の高さは西壁より0.15mを測る。ピットは掘方時も含め2ヶ所で検出された。規模はP1は径0.24m・深さ0.22m、P2は径0.25m・深さ0.28mを測る。床は軟質で顕著な硬化面はカマド周辺しか検出されなかった。

カマドは住居南東コーナー部で検出した。構築方法は袖部分が転石と粘土で被覆し形を整えていたと考えられるが、原位置を留めている構築材は無かった。火床部はよく焼けており、焼土の厚みは0.04mを測る。

出土遺物は覆土及びカマドを中心に出土した。特にカマド周辺からは8の土師器甌が破片で多く出土している。図示したのは9点である。1は灰釉陶器皿で底部外面はよく擦れている。2は須恵器环、3~7は土師器环であり、4は体部外面に判読不明の墨書が確認された。9は平瓦で、タタキと布目痕が確認できる。本址はこれら出土遺物より、10世紀代に位置づけられると考えられる。



第4図 H1号住居址実測図



第5図 H1号住居址出土遺物実測図

(2) H2号住居址

本址は調査区西より検出された。住居南コーナー部分のみの検出である。形態は不明で、規模は検出された部分が長軸長 0.86m、短軸長 0.59m で、面積は 0.35 m²、壁は 0.07m を測る。壁には壁溝が巡り、コーナー部分にピットが 1ヶ所検出された。ピットの規模は径 0.44m・深さ 0.17m を測る。

本址からの出土遺物は非常に少なく、土師器破片と土師器のいわゆるロクロ甕と呼ばれる破片が出土したのみである。よって本址の所産時期は不明である。

2. 積穴建物址

(1) T a 1号建物址

本址は調査区中央で検出された。形態は長方形と考えられるが北側が調査区域外となる。長軸方位は N-3°-E を測る。規模は検出南北長 3.59 m、東西長 5.47 m を測る。床面積は検出部で 18.77 m² である。壁の高さは西壁北よりで 0.46 m を測る。床は軟質で凹凸が激しかった。

本址からの出土遺物は図示した古銭の他に土鍋片、カワラケ片、染付を含む近世陶磁器片等があつたがいずれも小片で図示はできなかった。本址はこれらの出土遺物から近世の構築時期が推定できる。

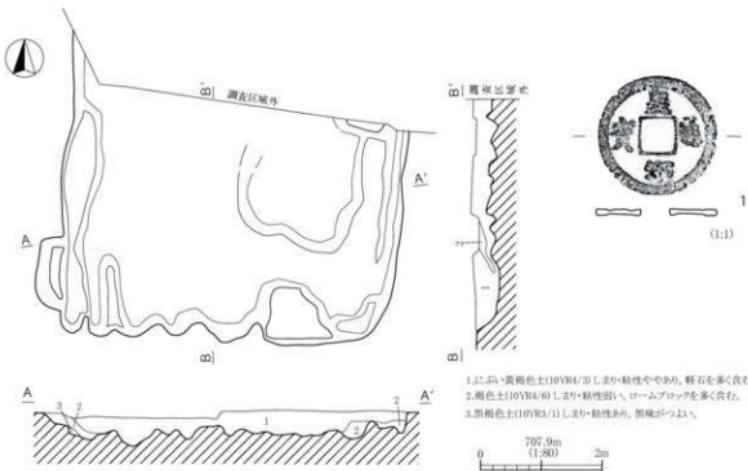
(2) T a 2号建物址

本址は調査区中央で検出された。形態は不整形と考えられ、北西側が T a 1号建物址により削平されている。長軸方位は N-9°-W を測る。規模は検出南北長 5.05 m、東西長 4.81 m を測る。床面積は検出部で 13.08 m² である。壁の高さは南東壁よりで 0.29 m を測る。床は一部で硬質化していた。本址からはピットが 14か所確認された。いずれも小型の方形を基調とするピットであり、深さは 0.13 ~ 0.58 m を測る。

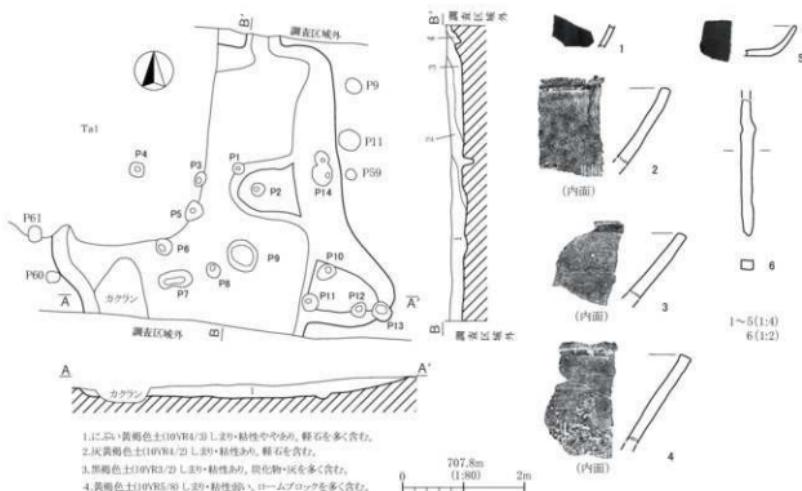
本址からの出土遺物は 6点を図示した。1は青磁碗片、2~4は瓦質のすり鉢で、2は片口部が確認できる。5はいわゆるカワラケであり、胎土はよく精錬されている。6は釘と考えられる。本址はこれらの出土遺物から中世の構築時期が推定できる。



第6図 H2号住居址実測図



第7図 T a 1号建物址及び出土遺物実測図

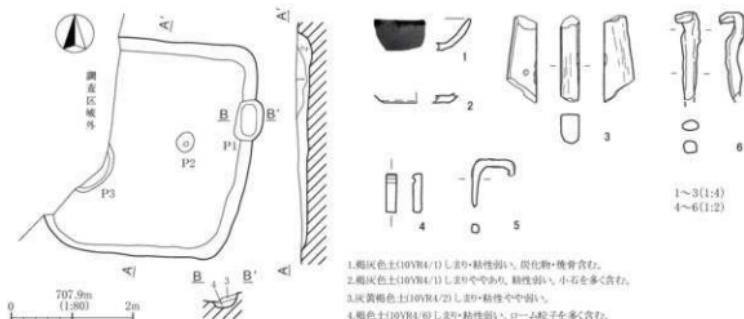


第8図 T a 2号建物址及び出土遺物実測図

3) T a 3号建物址

本址は調査区中央北よりで検出された。形態は方形と考えられ、西側が調査区域外となる。長軸方位はN-7°-Eを測る。規模は南北長3.17m、検出された東西長2.13mを測る。床面積は検出部で7.1m²である。壁の高さは北壁で0.13mを測る。床は一部で硬質化していた。本址からはピットが3か所確認された。ピットの規模はP1が径0.67m・深さ0.14mを測る。P2が径0.23m・深さ0.22mを測る。P3が径0.94m・深さ0.28mを測る。

本址からの出土遺物は6点を図示した。1と2はいわゆるカワラケである。いずれも胎土はよく精錬されている。3は砥石と考えられるが、石材はやや硬質で磨石的は使用方法の石製品とも考えられる。5と6は鉄製品で、6は釘と考えられる。4は石製品と考えられ、面取りが施されているが種別や使用方法は不明である。本址はこれらの出土遺物から中世の構築時期が推定できる。



第9図 T a 3号建物址及び出土遺物実測図

3. 土坑

(1) D 1号土坑

本址は、調査区の西よりで検出された。形態は方形で、規模は長軸長1.48m、深さ0.17mを測る。出土遺物は須恵器环片が出土した。

(2) D 2号土坑

本址は、調査区の西よりで検出された。規模は長軸長が2.63m、深さ0.48mを測る。出土遺物は土師器環と甕片が出土した。形態的に風倒木址と考えられる。

(3) D 3号土坑

本址は、調査区の東よりで検出された。形態は長方形で、規模は長軸長1.63m、深さ0.5mを測る。出土遺物は須恵器环片、土師器环片が出土した。

(4) D 5号土坑

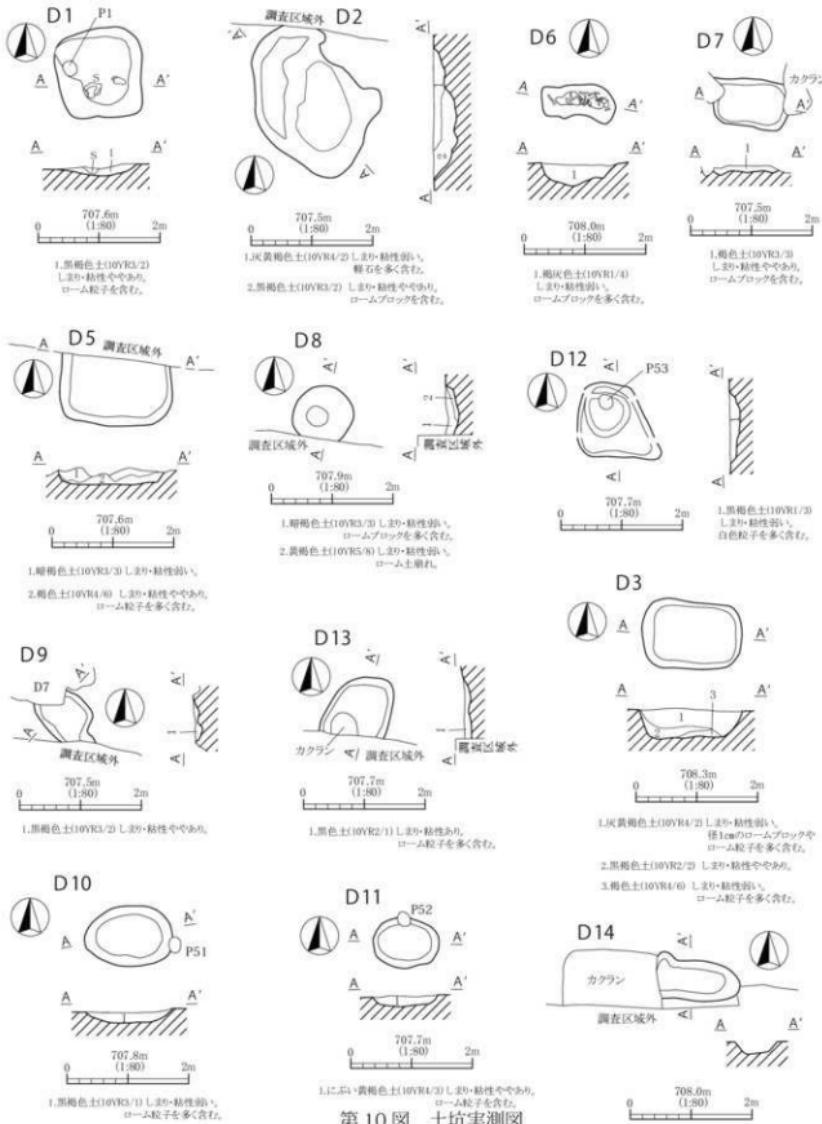
本址は、調査区の中央で検出された。形態は方形と考えられ、規模は東西長1.78m、深さ0.46mを測る。出土遺物はカワラケが一片出土した。所産時期は中世と考えられる。

(5) D 6号土坑

本址は、調査区の東よりで検出された。形態は不整形で、規模は長軸長1.26m、深さ0.36mを測る。土坑中央部より獸骨が出土した。

(6) D 7号土坑

本址は、調査区の西よりで検出された。形態は方形と考えられ、規模は長軸長1.26m、深さ0.12mを測る。出土遺物は土師器甕片が出土した。



第10図 土坑実測図

(7) D 8 号土坑

本址は、調査区の東よりで検出された。形態は円形で、規模は深さ 0.47 mを測る。出土遺物は無く、所産時期は不明である。

(8) D 9 号土坑

本址は、調査区の西よりで検出された。D 7 に一部削平されている。規模は深さ 0.12 mを測る。出土遺物は須恵器环片、土師器环片、土師器甕片が出土した。

(9) D 10 号土坑

本址は、調査区の中央で検出された。形態は梢円形で、規模は長軸長 1.44 m、深さ 0.18 mを測る。出土遺物は須恵器环片、土師器甕片が出土した。

(10) D 11 号土坑

本址は、調査区の中央で検出された。形態は梢円形と考えられ、規模は長軸長 1.08 m、深さ 0.17 mを測る。出土遺物は須恵器环片、土師器环片、土師器甕片が出土した。

(11) D 12 号土坑

本址は、調査区の中央で検出された。形態は不整形で、規模は長軸長 1.22 m、深さ 0.18 mを測る。出土遺物は無かった。

(12) D 13 号土坑

本址は、調査区の中央で検出された。形態は方形と考えられ、規模は東西長 1.08 m、深さ 0.13 mを測る。出土遺物は無かった。

(13) D 14 号土坑

本址は、調査区の東よりで検出された。形態は梢円形と考えられ、規模は南北長 0.67 m、深さ 0.22 mを測る。出土遺物は無かった。

4. 溝状遺構

(1) M 1 号溝状遺構

本址は、調査区の西よりで検出された。調査区を南北に貫くように検出された。溝の底面は凹凸が激しく、流水等の痕跡は確認されなかった。規模は検出長 4.93m、深さ 0.09 ~ 0.24 mを測る。溝底面は南の方が低かった。出土遺物は須恵器甕片、土師器甕片が出土した。

(2) M 2 号溝状遺構

本址は、調査区の中央で検出された。規模は検出長 5.1 m、幅 1.07 ~ 1.11m、深さ 0.21 ~ 0.26 mを測る。形状は逆台形で、溝底面は平坦であった。出土遺物は土師器甕片が出土した。

(3) M 3 号溝状遺構

本址は、調査区の東よりで検出された。規模は検出長 6.63 m、幅 0.67 ~ 1.45m、深さ 0.14 ~ 0.20 mを測る。覆土には砂が検出された。出土遺物は図示した土師器高环脚があった。

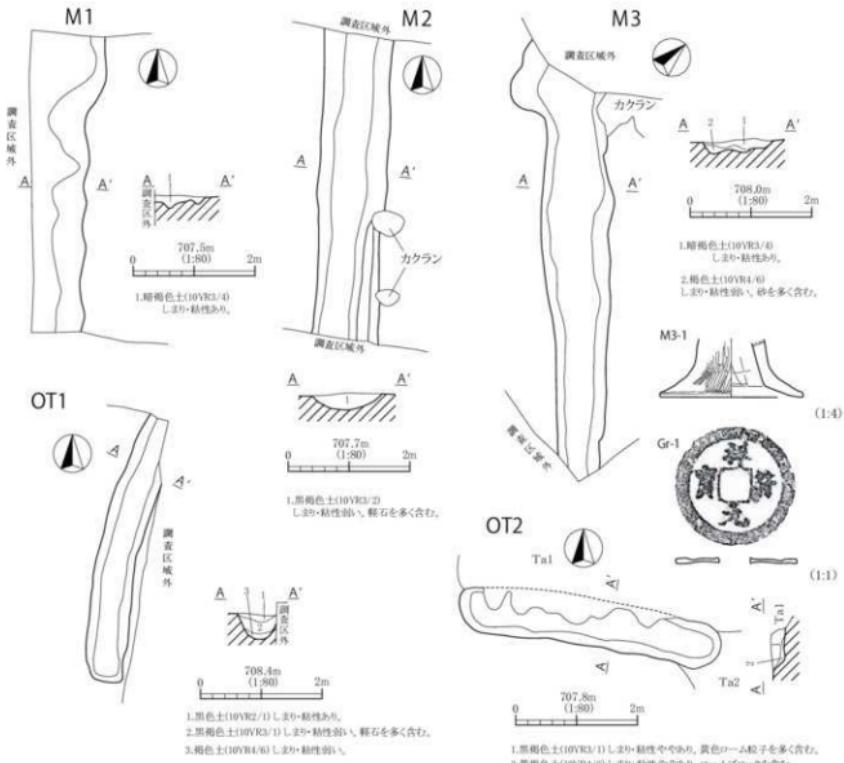
5. 周溝墓

(1) O T 1 号周溝墓

本址は、調査区の東端で検出された。南北方向に延びるように検出された。規模は検出長 4.39m、幅 0.59 ~ 0.67m、深さ 0.27 ~ 0.40 mを測る。溝底面は平坦であった。本址は東側に接する区画整理事業時の発掘調査（市報告書第 240 集掲載）の O T 24 の一部と考えられ、形態は円形周溝墓として捉えられる。出土遺物は無かった。

(2) O T 2 号周溝墓

本址は、調査区の中央で検出された。T a 1 に削平され、南側が調査区域外となる為全容は把握できなかったが、形態より周溝墓の一部と判断した。規模は検出長 4.35 m、幅 0.72 ~ 0.75m、深さ 0.16 ~ 0.20 mを測る。溝底面は平坦であった。出土遺物は弥生土器（箱清水式）壺片が出土した。



第11図 溝状遺構・周溝墓及び検出遺物実測図

6. ピット

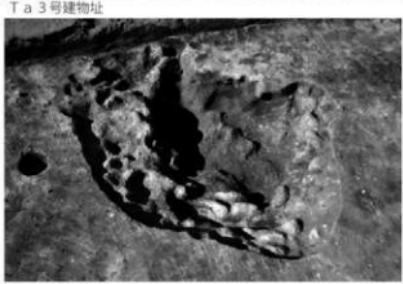
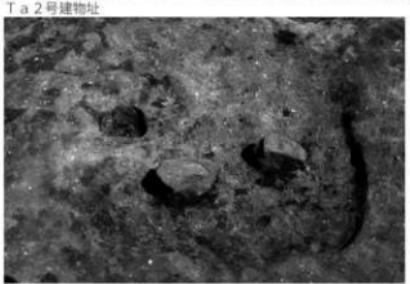
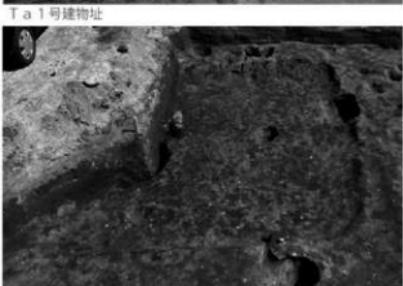
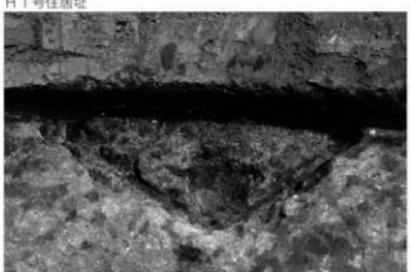
今回の発掘調査では60基の単独ピットを検出した。いずれも小型で、形態は円形が主体で、方形のピットも一部見られた。調査範囲の関係で掘立柱建物址になるものは無かったが、P1～P3とP6は南北に一列に並び柵列の状況を示していた。出土遺物はP20・25から土師器表のいわゆる武藏表片、P30・41から土師器环片、P31から須恵器环片が出土した。図示できるものは無かった。

第三章 調査のまとめ

今回の発掘調査は245m²という限られた面積の調査であったが、周辺地域の調査を補う形で幾つかの調査成果があった。それらを列記して調査のまとめとしたい。

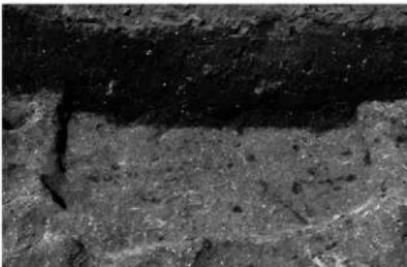
まず第一はOT1の検出である。先にも触れたが今回の調査を行ったことにより円形周溝墓であり尚且つブリッジが存在する事が確認できたことは大きな成果である。また、中世の遺構が検出されたことにより道常II地点やIII地点と同じく中世の活動領域が南に広がることが確認された点も成果として挙げられる。以上雑駁ではあるが調査のまとめとしたい。

図版 1

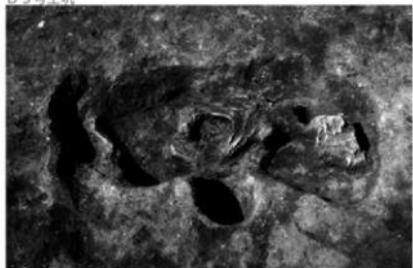




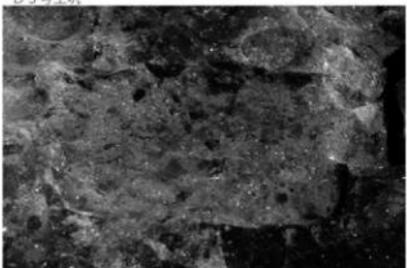
D 3号土坑



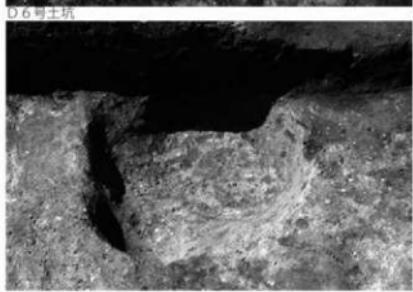
D 5号土坑



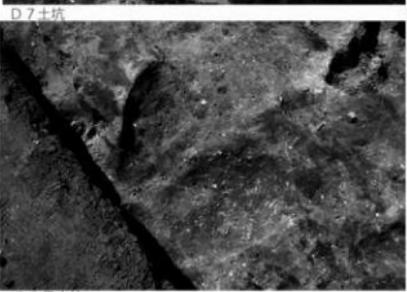
D 6号土坑



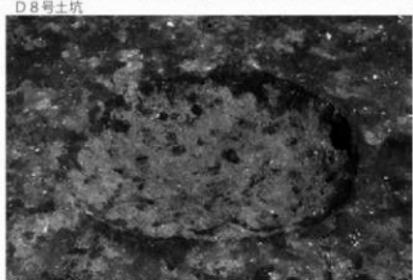
D 7号土坑



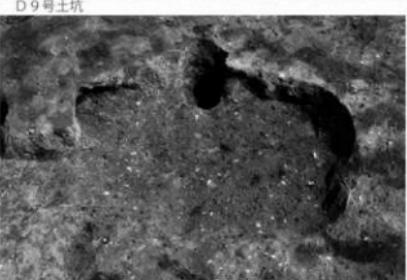
D 8号土坑



D 9号土坑

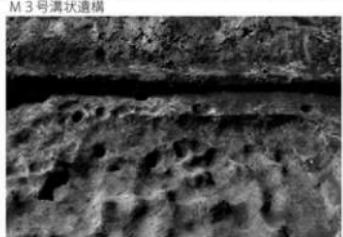
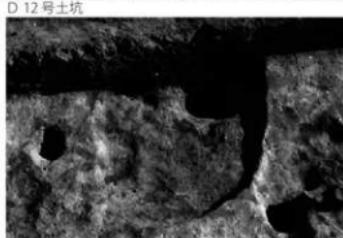


D 10号土坑

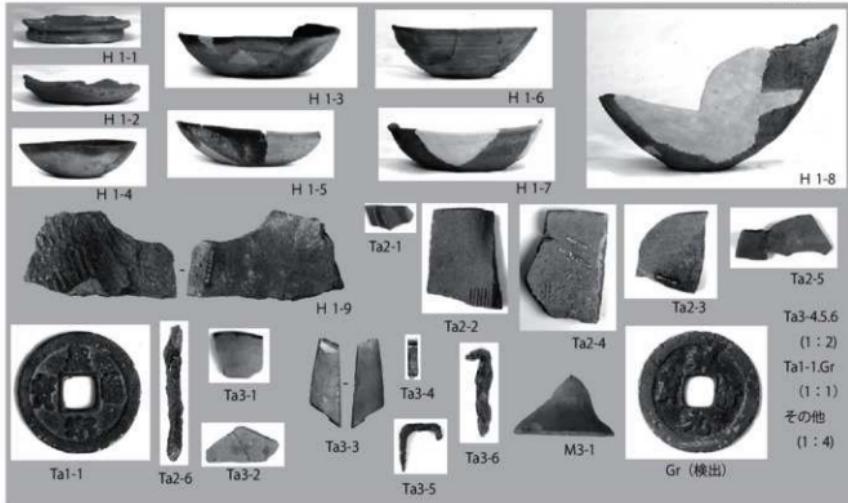


D 11号土坑

図版 3



図版 4



ピット計測表

遺物名	出土位置	長径	短径	深さ	形 塗	圖 考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形 塗	備 考
P1 シ-4	27.0	24.0	27.0	円形	10VR2/1 ローム多。D1を切込。	P31 オ-5	28.0	26.0	22.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P2 シ-4	30.0	27.0	45.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P32 オ-5	29.0	21.0	14.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P3 シ-4	37.0	35.0	15.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P33 オ-5	29.0	19.0	11.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P4 シ+シ-4	25.0	24.0	10.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P34 オ-5	30.0	25.0	25.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P5 イ-2	36.0	(35)	21.0	—	10VR2/1 ローム多。	P35 オ-5	24.0	22.0	17.0	方形	10VR2/1 ローム含む。		
P6 シ-4	30.0	25.0	14.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P36 オ-5	29.0	25.0	11.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P7 オ-5	39.0	26.0	22.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P37 オ・オ-4	53.0	(37)	19.0	—	10VR2/1 ローム含む。		
P8 欠番						P38 エ-5	115.0	78.0	28.0	不規則	10VR2/1 ローム含む。		
P9 カ-4	25.0	25.0	11.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P39 オ-5	33.0	30.0	15.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P10 オ-5	23.0	20.0	15.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P40 オ-5	67.0	35.0	26.0	—	10VR2/1 ローム含む。		
P11 カ-5	35.0	33.0	14.0	方形	10VR2/1 ローム多。	P41 オ-5	40.0	31.0	26.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P12 オ-5	23.0	22.0	19.0	—	10VR2/1 ローム多。	P42 エ-5	43.0	32.0	82.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P13 オ-5	22.0	19.0	10.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P43 オ-4	32.0	29.0	36.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P14 コ-4-5	36.0	27.0	23.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P44 オ-4	25.0	24.0	15.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P15 フ-2-5	34.0	27.0	28.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P45 オ-4	27.0	24.0	33.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P16 タ-2-3	38.0	30.0	29.0	—	10VR2/1 ローム多。	P46 サ-4	29.0	31.0	33.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P17 タ-2-4 タ-3	33.0	24.0	28.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P47 オ-4	39.0	35.0	18.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P18 タ-3	42.0	22.0	34.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P48 タ-4	27.0	26.0	13.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P19 タ-3	37.0	22.0	23.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P49 タ-5	72.0	64.0	53.0	不規則	10VR2/1 ローム含む。		
P20 タ-3	52.0	26.0	33.0	不規則	10VR2/1 ローム多。	P50 タ-3	45.0	24.0	22.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P21 タ-3	41.0	35.0	25.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P51 タ-4	25.0	20.0	15.0	円形	10VR2/1 ローム含む。D10を切込。		
P22 タ-4	29.0	28.0	37.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P52 タ-4	27.0	20.0	28.0	円形	10VR2/1 ローム含む。D11を切込。		
P23 ジ-5	126.0	32.0	35.0	不規則	10VR2/1 ローム多。	P53 タ-4	27.0	22.0	36.0	円形	10VR2/1 ローム含む。D12を切込。		
P24 ジ-5	26.0	33.0	9.0	円形	10VR2/1 ローム含む。	P54 タ-5	45.0	45.0	18.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P25 エ-5	30.0	28.0	30.0	円形	10VR2/1 ローム多。	P55 タ-5	37.0	32.0	21.0	円形	10VR2/1 ローム含む。		
P26 ジ-4-5	95.0	42.0	29.0	不規則	10VR2/1 ローム含む。	P56 オ-4-5	25.0	24.0	36.0	方形	10VR2/1 ローム含む。		
P27 エ-5	27.0	25.0	25.0	円形	10VR2/1 ローム多。D10に切られ。	P57 タ-4	24.0	23.0	43.0	方形	10VR2/1 ローム含む。		
P28 ジ-5	87.0	92.0	27.0	不規則	10VR2/1 ローム多。	P58 ジ-4	29.0	22.0	32.0	円形	ジ-4に切られる。		
P29 オ-4	47.0	39.0	22.0	—	10VR2/1 ローム含む。	P59 タ-5	19.0	18.0	23.0	方形			
P30 オ-5	43.0	37.0	28.0	不規則	10VR2/1 ローム含む。	P60 タ-5	23.0	20.0	16.0	円形	OT2を切る。Ta-1に切られる。		
P61 タ-5						P61	27.0	21.0	29.0	円形	OT2を切る。Ta-1に切られる。		

報告書抄録

ふりがな	すばうばたいせきぐん どうじょういせきご							
書名	周防畠遺跡群 道常遺跡V							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第275集							
シリーズ番号	第275集							
編著者名	富沢 一明							
編集機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込2913 TEL0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	2021年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (m ²)	発掘原因
	市町村	遺跡番号						
すばうばたいせきぐん どうじょういせき ご 周防畠遺跡群 道常遺跡V	さくしながとろ あざどうじょう 佐久市長土呂 字道常1254	20217	7	36°16.57'	138°27.35'	20200428 ～ 20200514	245	宅地造成 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
周防畠遺跡群 道常遺跡V	集落址	平安 中世	堅穴住居址 2軒 堅穴建物址 3基 溝状遺構 3本 土 坑 13基 周溝墓 2基	土器 須恵器 石製品 鉄製品 古錢				
要約	周辺の調査事例と同様に平安時代と考えられる住居跡、及び中世と考えられる堅穴建物址が検出された。また、東側の調査成果とつながる円形周溝墓の一部が確認された。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第275集

周防畠遺跡群 道常遺跡V

2021年 3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込2913

TEL0267-63-5321

印刷所

キクハライネ有限会社